

平成25年度

住民・議会 意見交換会報告書

地区名	月 日	会 場	参加者	議 員（先頭が班長）
小松	11月12日	中央公民館	34人	高橋忠、佐々木賢一、島貫徳右エ門、斉藤智志、（高橋照夫）
大塚	11月13日	大塚地区交流センター	30人	淀秀夫、佐々木賢一、加藤俊一、橋本欣一、（齋藤修一）
中郡	11月19日	中郡地区交流センター	24人	高梨勇吉、金子一郎、黒澤巖、高橋建一、遠藤章一

	質疑・要望・意見	質疑等への回答・今後の対応
1	<p>今後の町有施設のあり方について</p> <p>○埋蔵文化財資料展示館の現状は。</p> <p>○埋蔵文化財資料展示館は国指定史跡「下小松古墳群」の展示施設もしくは仮施設となっているのではないかと。施設を移転する場合は国・県との調整が必要なのではないかと。</p> <p>○川西診療所は老朽化し、建替えの時期になっているが、社会福祉協議会や介護事業、学童保育等町民の福祉を担ってきた。この施設の再整備にあたっては町の福祉計画の受け皿となる施設とするべきだ。</p> <p>○小学校の耐震化事業に3年間で約4億円を見込んでいるが、小学校の2校の統合案を棚上げして耐震工事を行うのは無駄遣いといえないかと。</p> <p>国の補助金はどうなっているのか。</p> <p>○大塚小学校の耐震診断の予定は。</p>	<p>○平成16年度まで町文化財保護協会に、開館業務を委託していたが、現在は観覧希望があった際はまちづくり課職員が対応している。施設の老朽化もあり、平成28年に供用予定の旧二中に埋蔵文化財展示機能を移転する計画である。</p> <p>●まちづくり課</p> <p>埋蔵文化財資料展示館に展示している下小松古墳群の出土遺物は文化財保護法のもとで保護すべきものであるが、史跡とは切り離して整理されるものである。移転に際しては国・県との協議が義務付けられていないが必要な情報交換を行いながら実施する。</p> <p>○町から診療所の整備の方針が示され、福祉部門については一定の機能を付加するために調整中とのことであった。学童保育については改築される小松小学校に移転するので充実される。意見については議会でも議論されているので、今後詰めていく。</p> <p>○耐震診断の結果を受け、玉庭小学校校舎の耐震補強工事と屋内運動場の全面改築が示された。現在学区再編の協議会を開催しているが、耐震化を先行せざるを得ないとの考えも示された。中郡、犬川、東沢小学校の屋内運動場の耐震診断、耐震補強は各地区の防災上の避難所となっていることから、統合に関わらず整備が必要である。</p> <p>国の補助金は3分の1であるが、本町は過疎地域指定であるため、「かさ上げ」となり、校舎・屋内運動場ともに10分の5.5の補助を受けることができる。</p> <p>○昭和56年以降の建物は耐震となっている。</p>

<p>○大塚地区交流センター（昭和53年築）の耐震診断の予定は。</p> <p>○大塚地区交流センターの水道の油臭が抜けない。</p> <p>○大塚地区の公共施設の数は。</p> <p>○大塚小学校の体育館の塗料が衣服に付くことを指摘していたが改善されていない。</p> <p>○この意見交換会で議会は何を聞きたいのか。</p> <p>○改築される小松小学校には学童保育が設置されるが、その他の学校での設置は。</p> <p>大塚小学校の空き教室を利用できないか。</p> <p>○旧二中を役場庁舎にできないか</p> <p>○旧二中の維持管理・改修をもっと早急に行うべきでなかったか。雨漏れが出るのが早すぎるのではないか、その原因は。体育館は降雨時、音が聞こえない。業者の責任はないのか。中郡小学校においても雨漏りが発生している。</p> <p>○旧二中は災害時の避難所であり、備蓄品の倉庫としても活用すべきで、簡易トイレ等も備蓄すべき。</p> <p>○旧二中等でもいえるが、先を見越した投資が必要でない</p>	<p>○現在のところ、耐震診断の予定はない。防災上の避難所になっているので、安心して利用できるよう要望していく。</p> <p>○年内中に工事をする事になっている。</p> <p>○把握していない。</p> <p>●<u>総務課</u></p> <p>町全体で87施設、大塚地区4施設である。</p> <p>○裏板の繊維質がはがれ浮遊しているもので、害はないが掃除等が大変である。改修するには屋根全体をなおす必要があり多額の出費が必要である。</p> <p>○限られた財政の中で公共施設の整備を行う必要があり、より効率的で利便性の高い施設とするため意見聴取をしている。</p> <p>○小松小学校以外では現在のところ予定はない。</p> <p>現在、何らかの形で教室を使用しており、空き教室はない。学童保育に利用する場合は、間仕切り、水場の確保等施設整備が必要となり課題となる。子育ては町の重要な課題なので、今後政策提言していきたい。</p> <p>○これまで、正式な場で検討されたことはなかった。庁舎建設の場所は今後検討が必要であり、複合施設の検討も必要である。旧二中は文部科学省の補助金で建設され、以前は目的以外の使用ができなかった。</p> <p>○設計では、デザインが重視され、雪対策が十分でなかった。構造上の問題もあった。業者の責任は瑕疵責任担保期間が2年とされている。町、議会で建設後2、5、10年といった期間の検証が必要ではないか。</p> <p>小学校については調査したい。</p> <p>○議会においても、町から災害時における備蓄品の倉庫としての使用の回答を得ている。</p> <p>○庁舎建設もそうだが、20年、30年先を見越した投資を考えていかな</p>
--	--

	<p>か。</p> <p>○庁舎耐震診断の結果によって、あとどのくらい持たせるのか。例えば旧二中の再利用はあるのか。また町立病院跡地の利用は検討されているのか。</p>	<p>ければと思う。</p> <p>○庁舎整備は第5次総合計画で進められるものと思う。旧二中は現在里の暮らし推進機構の事務所になっており、今後整備が進めば交流拠点、埋蔵文化財の保管展示、遅筆堂文庫のバックヤードとしての利用が予定されている。診療所は平成28年に整備される予定であり、これまでの健康福祉センター構想との整合性が求められる。複合施設等の効率性が課題である。</p>
<p>2</p>	<p>議員定数について</p> <p>○川西町の人口の推移の予測について</p> <p>○議員定数に関する調査特別委員会を設置して検討することだが、どういう組織なのか。住民の意見はどうするのか</p> <p>○議員だけで、議員定数をどうするか、真剣に議論できるか疑問である。</p> <p>○置賜地域の町村の人口に対する議員数はどうなっているか。</p> <p>○1名の議員が辞職し、現在14名であるが支障があるのか。</p> <p>○議員の定数は人口だけで判断するのか。やたらに削減しなくてもいいのではないか。川西町はこの人数でいいと思う。</p>	<p>○年々減少していくという予測である。</p> <p>○議長を除く13人の議員で構成する。住民の意見は委員会の中で聴取するかどうか検討される。</p> <p>○川西町（人口17,149人、議員定数15）高島町（25,467人、17）白鷹町（15,456人、14）小国町（8,758人、10）飯豊町（7,987人、10）である。</p> <p>○議員が少なくなると、少なからず委員会運営に支障がある。議会ではある一定の人数が必要ではないかという議論がある。地方自治法では議員の上限値が人口2,000人未満で12となっている。これは議会の委員会運営を考慮して設定されているのではないかと考えられる。</p>

	<p>○議員定数は人口対比か、有権者対比化か。</p> <p>○議員を削減するより、いかに機能させるかを考えるべきだ。</p> <p>○議員間で適当な定数の論議はあるのか</p> <p>○町として最低必要と思われる議員数は。町民としては少ない方が良い。</p>	<p>○以前は人口対比を採用していたが、平成23年の請願審査では有権者対比をとっている。</p> <p>○定数削減で委員会機能が脆弱化している議会もあると聞く。平成26年3月までに特別委員会で検討を行う。</p> <p>○公式には行われていない。平成17年に議員のアンケートをとって調査した経緯はある。今後特別委員会で検討されると思う。</p> <p>○現在、町議会は常任委員会制度で運営しているため現数が必要と思われるが、町民の声は十分考慮しなければと考えている。平成26年3月までに特別委員会で結論を出す。</p>
3	<p>その他町政・議会全般に関することについて</p> <p>○駅西広場の私有地について町の考え方は。またLED街路灯の整備が行われたが、駅周辺をにぎやかにしなければ商店街の振興、活性化は望めない。どのような計画があるか。</p> <p>○人口が減少傾向にあるが、これ以上人口が減らないような方策があれば聞きたい。</p>	<p>○LED街路灯の整備は手段であり、目的は中心商店街の振興である。計画ができれば商工会役員の皆さんとの定期的な意見交換を行い、連携を深めていきたい。駅を中心とした様々な取組みを、えき・まちネットや置賜農業高校の生徒さん達がなされており、今後も地域振興や町発展につながることを望んでいる。</p> <p>●産業振興課</p> <p>平成25年度中に中心市街地活性化協議会を立ち上げ、26年度中に具体的な計画を策定するのでそこで検討される。早ければ第4次総合計画期間中（平成27年度まで）に実施できるものもあるが、大方は第5次総合計画に盛り込むことになる予定である。</p> <p>○町では総合計画を定めているが、その中で人口減少への課題を掲げている。後期計画では過疎債を活用し、起業支援基金、子育て支援基金、人材育成交流基金の3基金を創設（それぞれ1億円）、この財源を活用して事業</p>

<p>○過疎債は何年まで適用されるか。</p> <p>○過疎債は学校建設にも適用できるか。</p> <p>○小松地区交流センターを整備してほしい。また、部落公民館の新築、改築の補助金がなくなったが、復活してほしい。</p> <p>○J R羽前小松駅の駅舎改築について、町との話し合いがあったのか。小さな道の駅等を含んだ話はなかったのか。</p> <p>○以前に庁舎建設基金を積み立てていたが、現在どうなっているか。</p> <p>○農地の基盤整備の状況は。</p> <p>○6次産業化の拠点施設の候補地や事業内容の状況は。</p> <p>○除雪について、早朝勤務をしなければならないので午前5時30分まで終了できないか。</p> <p>○入札制度について、相入札業者が下請けすることは考えられないが川西町では行われている。</p> <p>○乳幼児を預ける場所がない。</p> <p>○国道287号バイパスの4車線は必要なのか。当初は2車線の計画でなかったのか。</p>	<p>を展開し、人口減少の歯止め的一方策である。</p> <p>○平成22年度から6年延長されたので27年度までが今期期間だったが、さらに32年度まで5年間延長されることが決まった。</p> <p>○対象事業に入っており、適用できる。</p> <p>○現在のところ、小松地区交流センターの建設は予定にない。部落公民館の補助金は、財政難の際廃止された。議会では復活について議論していないので、要望として受け止めたい。</p> <p>○J Rから町に対して改築の説明があり、議会も報告を受けた。道の駅等の話はなかった。</p> <p>○庁舎建設基金は、財政難の際に取り崩して財源とした。その後基金の造成はしていない。</p> <p>○こうぞく地区、高山地区に続いて、宮地地区、谷地地区、西大塚地区と進められている。課題は事業費の10%を町が負担することであり限度があること。今後国・県に町負担のガイドラインの見直しを要望していく。</p> <p>○拠点施設の場所、運営主体等まだまだ具体化していない。</p> <p>○除雪対策会議でも議論されたが、午前7時30分を目途としている。自治会長を通して要望してほしい。</p> <p>○持ち帰り検討させていただきたい。</p> <p>●出納検査課</p> <p>建設業法上では、問題がなく本町としては相入札業者が下請けすることは規制していない。</p> <p>○乳幼児施設の充実を図るよう、議会としても要望、提言していきたい。</p> <p>○2車線の話は聞いていない。道路整備には一定の基準がある。</p>
--	---

○考古学関係者から、原田城址がある置賜公園の土手が壊されているという指摘がある。米沢市、高畠町では伊達の史跡の掘り起こしが進められている。川西町との連携がとられていないのではないか。

○下小松古墳群の関連施設資料館を見学したいとの問い合わせがあるが、閉館状態となっており不便である。国指定の史跡なのだから補助金もあるのではないか。

●まちづくり課

原田城址は、文献資料等から16世紀後半、伊達家の家臣原田氏の居城となっていた城址と考えられる。町では公園整備のため西側土塁の一部を改変する必要が生じたため、平成23年10月に文化財保護法に則り手続きを行い、まちづくり課が主体となり同年11月21日までの期間、現地で発掘調査を行った。その結果、土塁の構造が判明したほか、縄文期の石器、中世の土壇墓を確認し、記録保存することとした。原田城址の活用にあたっては、地域資源として町内各層の主体的な取り組みにより、有効な活用が図られることを期待する。

●まちづくり課

下小松古墳群の出土遺物を展示する埋蔵文化財資料展示館は、平成16年度まで町文化財保護協会に開館業務を委託していた。その後は同協会に期日を決めてボランティアで開館業務にあたっていたが、その他の日については観覧希望があった際にまちづくり課職員が対応してきた。なお、平成28年供用予定の旧二中を活用するコミュニティ施設に移転する計画である。埋蔵文化財資料展示館について、現在、受けている補助金はないが、旧二中を活用するコミュニティ施設への移設に際しては、有利な財源を研究しながら効果的な移設となるよう検討する。